

## Y12c 日米のリモート望遠鏡を用いた共同観測の試み

木村 かおる (理研)、戒崎 俊一 (理研)、川井 和彦 (理研)、縣 秀彦 (国立天文台)、内藤 誠一郎 (東大理)、山本 泰士 (電通大)、小池 邦昭 (東京理大理)、Vivian Hoette (シカゴ大ヤークス天文台)、Kevin McCarron (OPRFHS)

2001年秋、科学技術館屋上に設置されたリモート望遠鏡(名称:北の丸望遠鏡。以下KITと記す)の本格化運用が昨秋から開始された。KITの試験観測期間中には、リアルタイム観測に参加した国内の学校からのリモート観測や、アメリカ、フランスの大学や、様々なワークショップで観測デモンストレーションをおこなってきた。

9月からはシカゴ郊外にあるオーク・パーク&リヴァー・フォレスト高校において、天文学の授業で数回に渡りKITを用いた授業が行われている。また12月には、ヤークス天文台に設置されたリモート望遠鏡(名称:ヤークス・ルーフトップ・望遠鏡。以下YRTsと記す)を用いての講習会も実施され、日本の学生らがYRTsのリモート操作に挑戦した。こうして、日本とシカゴの時差を利用し、日米の中学生・高校生が、昼の時間帯にインターネットを通じての天体観測を行っている。

このポスターでは、試験観測開始後の運用実績を発表するとともに、今後の計画を述べる。今後はKITとYRTsのデータベースの蓄積と公開方法、カリキュラムの開発を双方で協力し、開発を進めていく予定である。